

2月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比^{*}DI値の動き

31年2月のDI値は8指標中、3指標が上昇。特に「売上高」においては2桁の大幅な上昇。「景況」「収益状況」は下落。残り3指標においては横這いとなった。

2. 県内中小企業の景況の現状

鉄鋼・機械金属業界では需要が堅調であり、板金工事業をはじめ建設業においても、引き続き需要が好調であった様子。またステンレス業界では大手を中心に設備投資が続いているとの明るい報告も寄せられた。

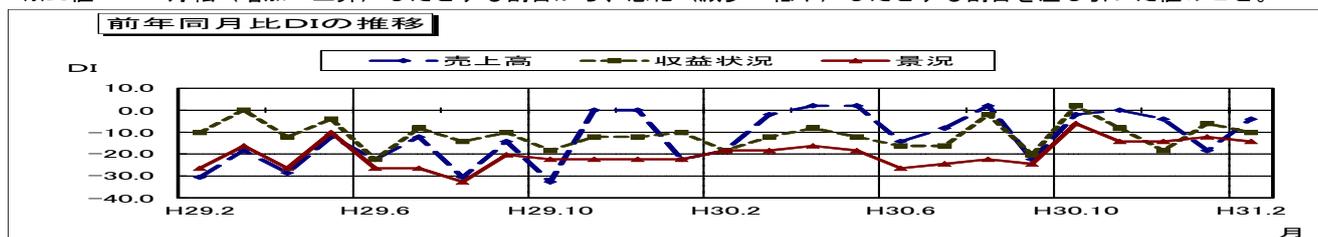
一方、技術者不足や運転手の高齢化など慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や燃料価格の高止まりが収益を圧迫しており、売上高増加も収益状況の好転に繋がっていない。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H30 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31 1月	2月	前月比 増減
景況	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-26.5	-24.5	-22.4	-24.5	-6.1	-14.3	-14.3	-12.2	-14.3	-2.1
売上高	-18.4	-2.0	2.0	2.0	-14.3	-8.2	2.0	-22.4	-2.0	0.0	-4.1	-18.4	-4.1	14.3
収益状況	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-16.3	-16.3	-2.0	-20.4	2.0	-8.2	-18.4	-6.1	-10.2	-4.1
販売価格	8.2	18.4	10.2	4.1	4.1	6.1	8.2	10.2	6.1	4.1	6.1	4.1	12.2	8.1
取引条件	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-4.1	-2.0	-2.0	-2.0	0.0
資金繰り	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-8.2	-14.3	-12.2	-12.2	-2.0	-4.1	-10.2	-10.2	-6.1	4.1
設備操業度	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-6.1	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0	-6.1	-6.1	-4.1	-4.1	0.0
雇用人員	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	-14.3	-14.3	-14.3	-14.3	-8.2	-10.2	-14.3	-8.2	-8.2	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は99.9%出荷量は98.8%となった。前月比では生産量59.6%出荷量50.0%と減少した。前月比は前月冬場の季節的要因で増加した分の反動で減少、計数面では例年のパターンであり特に問題ない。収益面は厳しい状況が続いている。

<繊維・同製品>

2. 縫 製・相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材（幹部候補生）の獲得が大きな課題であるが、最近では、技術者不足も如実に表れ、採用が思うように進まない状況である。売上、収益については、前倒し受注増による経費がコスト高に推移している。国内市場の頭打ちの感は相変わらずで、将来の景気回復への見通しは引き続き厳しい。
3. 縫 製・市場の低迷。

<木材・木製品>

4. 木 材・木材業界としては2月の状況としては何とか上向いてくれるのかと思われたが、現状は考えたよりも低調な状況で推移した。今後、あらゆる物品の価格が上がると予想される。今に至っては景気回復を希望することはできないと考える。秋に消費税を8%から10%に上げると政府は決めているようだが無事に上げることができるのかどうか？
5. 製 材・県産材原木出材不足と輸入原木高による仕入困難な状況である。
6. 木 材・原木丸太出材量は増となっている。価格は頭打ち感があるが注文は多く動きもよい。一方、一般製材製品については相変わらず需要も価格も厳しい状況は変わらず推移している。
7. 製 材・販売ルートにより差が見られるが、引き続き全般的に荷動きが悪い状況が続いている。

<印刷>

8. 印刷・2月も全体的に売上高や需要の減少傾向が続いている。用紙の値上げが本格的に始まった。周知度もうすぐ価格に転換しにくい状況。年度末需要に伴う売上高の増加と需要の回復を期待するところだ。
9. 印刷・印刷用紙が2月1日より約20%値上げされた。年明けから各社はクライアントに向けて値上げの交渉に回っているのだがなかなか受け入れてくれないクライアントもあるようだ。新年度向けの印刷需要は少しずつ回復基調にあるようだが、まだ値上げ交渉が決着していない中、値上がりした用紙を使用して印刷している仕事もある。利益を圧迫しているどころか赤字になっているはずだ。その上、値上げ交渉の末、顧客離れや紙離れを起こしている様な気がする。4月から働き方改革関連法への対応もしなければならないが、こんな様子では利益の確保は難しそうだ。

<窯業・土石製品>

10. 生コン・2月は昨年同月と比較してほぼ横ばいの量。特需工事は順調だが2月は稼働日数も少なく、特に新規工事の発注はなく、災害関係の工事については、年度内の出荷はあまり期待できそうにない状況。
11. 生コン・2月の出荷数量は、対前年同月比5%の減少となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、既存工事の完工による減少と官民での新規受注工事の減少による。今後の出荷数量については、数量的には前年並みを予想している。収益面においては、1月より価格表の見直しにより単価を引き上げたが、数量減少により大幅な改善にはいたらない。問題点としては、輸送車（生コン車）での運転手の高齢化であり、人材不足による補充ができていないのが現状である。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄鋼・業況に大きな変化はなく、横這いの状況で推移している。全体的には、需要は堅調であるが、一部では、海外経済情勢の影響を受け、減速傾向も見受けられ、今後の動向が懸念される場所である。依然、原材料価格の上昇、技術者などの人材確保に苦慮している。
13. ステンレス・米中の貿易摩擦やイギリスのEU離脱問題などの世界経済への影響が懸念され、直近では為替も円高が心配されている。今後の世界経済の先行きが不透明状況ななか、国内市場は大手を中心として、好調な企業収益を背景に設備投資が続いている。

<一般機器>

14. 機械金属・全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。ただ、一部に設備投資の動きもあり、業況の好転が見られる一方で、米中貿易問題など、世界経済を巡る様々なリスクから、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、原材料価格その他の経費の増加、生産設備の老朽化、従業員の確保難などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧卸・原価と人件費の上昇を前提に利益確保。

<小売業>

16. ショッピングセンター・売上高は前年対比全店計89.7%（既存店90.7%）、客数も90.0%（91.0%）だった。依然として低迷が続いている。先月報告したように、やっと待望のリーシングが成功した。オープンはGW前の4月下旬だが、150坪のドラッグストアに出店していただくことになった。150坪の売場を確保するために既存3店舗に館内移転をお願いしての出店で、その3店舗は3月上旬リニューアルオープンする。ドラッグストアといえば「一般用医薬品、健康美容に関する商品、日用品、生鮮食品以外の食品」を取扱う業態なので、既存の化粧品店や核店舗の食品売場と商品がバッティングするのは必至だが、トータル的に客数が増加し活性化するものだと確信している。以前より弊補において欠落する商品が、「靴」「薬」等と言われ続けてきたが、これでやっとその1つが取り扱えられるようになる。
17. 電気機器・家電製品全般的に動きが鈍い。消費税増税前のカード払い等々の情報不足の影響による買控え現象か？
18. 機械器具・暖冬の影響により春の時期の小売リスタートが早まっている。
19. 量小売業・暖かい2月で一般家庭の入れ替えが例年より多かった。新築現場の仕上がり順調で、年度末に向けてスピードアップしている。リフォーム現場はフローリングに替わるところが相変わらず多い。
20. 石油・益々、雇用確保が困難になってきた。
- <商店街>
21. 徳島市・2月初旬に新店舗（飲食業）が1店舗オープンしたが、下旬には飲食業の別の店舗が閉店された。
22. 徳島市・2月は寒さが厳しく動きが弱かったが下旬、気温の上昇により客の動きが出てきた。資金的にも余裕が出て、リピーターによる買い物で光の兆しも見えてきた。
23. 阿南市・全体的に横ばい。

<サービス業>

24. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。当該業務において、工務課・交対課・道路管理課における工事業務量は、2月度は落ち着いているが、工務課での新直轄工区の次年度発注準備で去年より忙しい結果となった。道路管理課は次年度発注工事の準備作業があったが、落ち着いていた。交対課においては、もともと工事量が少なく、例年と同じであった。来年度(2019年度)工事は、工務課の工事量が今年度の1.5倍近くなる模様。道管においては工事量が今年度の倍近くなる模様。2019年度は忙しくなりそうだ。
25. 自動車販売整備業・登録自動車(普通車)の新車登録台数は対前年同月比-0.2%の1,748台、中古車は-2.6%の458台、合計では-0.7%の2,206台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比5.9%の1,461台、中古車3.0%の448台、合計は5.2%の1,909台である。登録自動車(普通車)・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比2.0%の4,115台と微増。登録車の販売台数は概ね例年並みであるが、軽自動車の販売台数がやや増加、新車登録においては5.9%増となったが、過去5年間では例年並み。近年の不調が伺える。繁忙期でもあるので、来月に期待したい。
26. 旅行業・全体的に2月はあまり良くない状況だったようだ。
27. ビル管理・特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件が変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。(H25年・654円→H30年・766円)。H30年10月から新規改定額が適用されることとなり、これに伴うダメージが表れてくると思われる。

<建設業>

28. 建設業・平成31年度予算が、「15ヶ月型・県土強靱化予算」となった。H30当初予算(14ヶ月予算)から119億円の大増、総額892億円を確保!公共事業費は、対14ヶ月比107億円増、総額830億円、県単維持補修費は、対14ヶ月比12億円増、総額62億円。
29. 電気工事業・新設住宅口数は372件であり、対前年比118%と増加した。
30. 板金工事業・仕事量が順調にあるので日々忙しく、手間不足状態が続いているようだ。
31. 鉄骨・鉄筋工事業・2月も前月と変わらず、引き続き忙しい状況が続いている。

<運輸業>

32. 貨物運送業・一般輸送貨物は、取扱業種により異なるが、全般に荷動き少なく低調に推移。現状、トラック余りの運転手不足は依然として続いており、軽油単価は前月比2円50銭前後の値上がりで、営業日数減による売上減と燃料高のダブルパンチで収益の確保が厳しい。
33. 貨物運送業・売上高は増加と答えた事業者の割合が多かったにも関わらず、収益状況では好転と答えた事業者は1社も無し。ドライバー不足や燃料価格上昇の影響と思われる。